

もりふれ倶楽部通信 NO. 25

ナズナについて

もりふれ倶楽部 理事長 槇原道夫



新年 明けましておめでとうございます。

旧年中は会員の皆様はもちろん、活動にご理解をいただいた多くの皆様方に、もりふれ倶楽部をさまざまな角度から支援をして頂きました。お蔭様で、ペンペン草が屋根にはえ、屋台骨が傾くという状態になることもなく、県下では一応名前の通った NPO として、存在を認めていただけるようになりました。ありがとうございました。

本年も皆様方には積極的にもりふれ倶楽部の諸活動に参加をいただき、ペンペン草が屋根の上でかっぱれ踊りのお囃子を囃さないように、よろしくお願いいたします。

ペンペン草の名前の由来は皆様ご承知のように実の形から来ているのですが、実が風などで触れ合うとぺんぺんという音がするそうです(私にはがさがさとはしか聞こえませんが、なんとも風流心のないことです)。一方、新年を祝い健康・長寿を願う食材の若菜(春の七草)の一つであり、平安時代の昔より新春の若菜摘みとして、貴族社会から始まって江戸時代には庶民の社会にまで広がり、今日にまで伝承されている、新春を寿ぐ文化の七草粥の食材の中心になる一草です。

冬の青菜不足によるビタミン欠乏症を防ぎ、正月行事等で荒れた胃袋をなだめるのには、七草粥はもってこいの食事であったと思われます。

このようにナズナ(ペンペン草)は悪役としても、役に立つ食材の植物としても話題になることが多くある畑地や路傍、田の畦などにはえごく身近な雑草です。

ところで、今年の暮は COP15 (温暖化対策の国連会議)の話題がマスコミをにぎわしました。鳩山首相が温暖化ガスの排出量を 1990 年比 25%の削減の大声を上げて、多くの拍手を浴びたようですが、中国、インドなど急速に発展しつつある国々のエゴもあって、結局しり切れとんぼで幕を閉じてしまいました。

いまや地球温暖化は、地球全体の環境悪化特に急激な気候変動を招いています。環境変化に対応する能力の低い生物は、生息の場を失い絶滅したり、その危険に瀕しているといわれています。また、近年我々の身近なところにも、温暖化に伴って起こっていると思われる異常現象が目につきます。特に今年の冷夏・長雨と秋の暖かさは植物の開花現象にも大きな異常を見せました。

我が家のヤマザクラは 10 月の後半に花を咲かせました。11 月半ばから 12 月にかけて、タンポポの花、七草の一つ ごぎょう(ハハコグサ)の黄色の花、そしてペンペン草の白い可憐な花とペンペンの実を花茎にぎっしりと付けたものなどをたくさん見かけました。普通なら少なくとも 3 月あたりから花を咲かせるものです。特にペンペン草は秋に発芽して冬に根出葉(ロゼット)を地面に広げ、寒さ対策をしてからロゼットの中心より互生に葉をつけた茎を立ち上げ、その先に白い小さな花とペンペンの実を総状につけます。

しかし、見かけたナズナはロゼットを作らず、根よりいきなり茎を立ち上げ実をぶら下げています。これでは食料にする部分がありません。こんなナズナがいっぱい見られました。

七草粥からナズナの名前が消えてしまう日も近いかもしれません。

また動物でも気になることがありました。我が家周辺を縄張りにするウグイス♂が毎年春から夏にかけて縄張り宣言をする歌声を聞かせてくれますが、去年はそれが 10 月半ば頃まで続きました。きっと季節感が狂ったのでしょう。来春も来てくれるのか心配です。

また冬眠しないで飛び回ったり、はいづったりしている昆虫類も多く見かけました。

こういう季節感の変化は、当然植物の生活状態を大きく変えます。それに対応する動物の生活も変わらずにはおれませんし、ひいては我々人間の世界にも大きな影響を与え始めます。ひょっとして、ペンペン草が 12 月のはじめにペンペンの実をつけるのは、人類滅亡のシグナルが点滅を始める前触れであるかもしれません。

なんにしてもこれ以上の温暖化の進行は止めなければなりません。化石燃料の消費もほどほどにする必要がありますし、それにもまして CO₂ を積極的に吸収し固定する、低炭素社会の回復に欠かせない森づくりを進めなければなりません。NPO もりふれ倶楽部の活動意義はここに存在します。

温暖化による自然災害等の多発で皆様方の家系が絶えることのないように、美しい森づくり、災害に強い森づくりを進め、現在以上に温暖化が進まないように、もうひと頑張りもりふれ倶楽部の活動を積極的に支援していただきますよう よろしく願いいたします。

田舎暮らしのススメ ～ なつかしの国 石見 から ～

邑智郡川本町在住 福代美保

■レポート 10

生産者と消費者の交流 収穫祭続き お米

2年目を迎えた「なかごく楽農一家親戚の会」の収穫祭を11月に開催しました。顔の見える生産者と消費者の会にしようと続けています。

最初は恥ずかしがっていた生産者の方々もアピールの仕方に慣れられたようです。お米はもちろん、手作りのコンニャク、お味噌、柿なども値段を付けて売られる姿には逞しさを感じます。

リピーターの消費者の方々と生産者の方々に連帯感が確実に生まれて嬉しい限りです。今年は、その輪を広げたいですね。



■レポート 11

そばの収穫祭 決め手は 江の川の焼き鮎

「そばを楽しむ会」も自慢の焼き鮎の出汁でそばを作りました。

田舎ツーリズム、スローライフの提案が私のテーマになりそうです。

おじさん達が夢を実現する「理想の山里づくり」のフィールドにある耕作放棄地を 活用しようと食を絡めて始めた「そば作り」は地味だけれど、誰が食べても美味しいそばに成長しました。これからは、少し商売気を出して地域のイベントに出店してもらえれば、実益にも繋がるのですが、私はあくまでサポートなので、今後の展開は、おじさん達次第と云うところでしょうか。



■ レポート 12 薪ストーブの冬

今年は、予想に反して結構な厳しい冬ようです。川本でも既にマイナス5度を経験しました。今夜は、更に冷えそうです。

新しく借りた空き家に時計型の薪ストーブを据えました。薪の暖かさはほんのりと家の空気を和らげてくれます。友達は薪ストーブの心地よさに居眠りをしてしまう始末です。しかし、仕事は忙しくて十分な薪を用意できていません。見かねた近所の方が、いつの間にか薪の差し入れをして下さいました。家に帰ると軒下に薪の束が置いてありました。有り難いですね。笠地蔵の昔話を思い出します。

今年は、川本で薪割り倶楽部を立ち上げる予定です。広島から1時間の地の利を活かし、広島の薪ストーブユーザーを集めて薪の商売をするつもりです。

薪を売った利益で田舎ツーリズム、羊の飼育などの事業費に充てていければと思っています。



■ レポート 13 支持される本物

年末に実家の福岡に帰りました。福岡のデパートには島根県の特産品も並んでいます。その数は年々増えています。福岡の中心は天神というところですが、その地下街には様々なショップが並んでいます。ブティック、ケーキ屋、アクセサリー、バック、カフェなどなど。ショップの入れ替わりもありますが、子供の頃からある、とある小さなカフェ。人混みの中でホットできる場所。

本物の居心地の良さは、時代の波にも負けずに健在なのでした。



著者

平成21年度 もりふれ倶楽部の歩み

10月4日(日)第6回里山自然塾

～秋の里山でキノコを探そう!～

参加者約50名は、3班に分かれ、園内の3ブロックで、それぞれキノコ探しをおこないました。学習室に戻ると、各班内で相談しながら、図鑑を使って自主鑑定をおこないました。その後、講師の長岡さん、平佐さんからレクチャーを受け、自主鑑定の結果を鑑定してもらいました。食べられるキノコは、キノコ汁にしておいしくいただきました。

講師 長岡久二郎、平佐隆文 ボランティア 槇原道夫、中村正志、竹下健二、福岡茂明



10月4日(日)森のアートフェスティバル対応

斐川町いりすの丘エントランス広場で行われたNPO法人ブルーパークてんとう虫主催の森のアートフェスティバルにおいて、木工教室を開催しました。のべ約50名の親子が参加されました。事務局対応



10月7日(水)安来市立山佐児童対応

安来市山佐児童館において、親子10組と職員3名を対象に、焼きスギ板のペイント作品づくりと自然体験活動・自然工作体験等の事例紹介を行いました。事務局対応



10月8日(木)松江市民大学環境講座対応

ふるさと森林公園学習展示館と野鳥の森において、松江市民大学環境講座の約50名に対して、森林保全の大切さの講座、コケ玉づくり体験指導、野鳥の森の自然観察指導を行いました。指導 中村正志、伊原千里、野田真幹、宮崎徳子



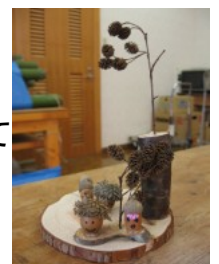
10月10日(土)原木シイタケひびき塾本気の実習編パート1

島根県立ふるさと森林公園林地で、全国林業改良普及協会と共同主催で、「原木シイタケひびき塾本気の実習パート1」を開催しました。林業家であり、優良原木シイタケの生産者である県林研副会長響繁則氏の指導で、約10名の参加者は、チルホールを使用して、コナラの木を決められた場所へ安全に倒す実習を体験し、「葉干し乾燥」に関する知識を学びました。指導 響 繁則

10月10日(土)里山ものづくり体験

ふるさと森林公園学習展示館の来館者の希望者に、里山ものづくり体験として「木の枝工作」の指導をさせていただきました。

指導 中村正志 ボランティア 木村京子





10月11日(日) 斐川町環境学習館対応

島根県立ふるさと森林学習展示館において、斐川町環境学習館の企画イベントの一部として、約30名に対して、ネイチャーゲームの指導を行いました。指導 横田典子



10月12日(月) ネイチャーゲーム教室

ふるさと森林公園にて、「焼き芋とネイチャーゲームの休日」を開催しました。約15名の参加者は、葉っぱや木の実を使ったネイチャーゲームをしたり、たき火でじっくりと焼いたホクホクの焼き芋を楽しみ、里山の休日を過ごしました。指導 野田真幹 ボランティア 野田あや子

10月17日(土)～18日(日) 島根県森林インストラクター等レベルアップ研修

島根県からの委託事業「島根県森づくりプロデューサー・島根県森林インストラクターレベルアップ研修」を実施しました。今回は、「樹木学習」「ツルグレン装置での土壌生物観察」等を学びました。

講師 佐藤仁志、太田和良、柴田一樹

運営 もりふれ倶楽部事務局



10月17日(土) 視察対応



島根県立ふるさと森林公園に視察に来られた、団体で森の管理も行っている「とっとり女性の森」約50名に対して、学習展示館と北部ヒノキ林において、事務局長の野田が「森林保全の大切さ」と「もりふれ倶楽部の活動」をテーマに話をさせていただきました。

事務局対応

10月24日(土) 原木シイタケひびき塾本気の実習編パート2」

島根県立ふるさと森林公園内林地で、全国林業普及教会と共同主催で、「原木シイタケひびき塾本気の実習編パート2」を開催しました。林業家であり、優良原木シイタケの生産者である研林研副会長響繁則氏の指導で、約10名の参加者は、ホダ木づくりと植菌木の伏せこみを体験されました。



講師 響繁則



10月24日(土) 森林教室

松江八束森林組合が山陰合同銀行の社員の方を対象に行った「森林教室」において、約120名に対して、「森林保全の大切さの話」と「ヒノキの和紙づくり体験～フル工程バージョン」を3班交代制で実施しました。指導 野田真幹、福岡茂明、小林玲子、宮崎徳子

10月25日(日) 森の音楽会

ふるさと森林公園の教会で、島根県緑化推進委員会と共同主催で、「ふるさと森林公園森の音楽会2009」を開催しました。のべ約80名の方が、クラシックとジャズのコンサートを楽しみ、里山の現在の問



題について考え、15、071円の緑化募金が集まりました。

司会 福岡茂明、松本尚子 参加ミュージシャン なかうみ交響楽団の仲間たち他

森の話 野田真幹



10月31日(土)多伎町コミュニティーセンター対応

出雲市多伎町の文化祭に「木切れ工作」コーナーを出展しました。

事務局対応

10月31日(土)自然観察会

島根県立ふるさと森林公園で、「大人のための自然観察会」を開催しました。約10名の参加者には、秋の夕暮れ、様々な自然との出会いがありました。 指導 中村正志 ボランティア 福岡茂明、松本尚子



10月31日(土)しまね間伐推進講演会

島根県立ふるさと森林公園学習展示館において、「愛する島根の森林の間伐を推進するために」をテーマとした講演会を、森林所有者を中心に、40名以上の参加者を迎えて開催しました。その中で、全林研会長田中惣次氏は、自らの森林づくり等から「間伐まったなし!」というテーマで、森林ジャーナリストの田中淳夫氏は、吉野林業で、間伐を含む主伐までの様々なプロセスで森林から収入を得てきた事例から、現在への奮起を促す内容で、それぞれ講演をされました。その後のパネルディスカッションでは、島根県統括林業普及員の井ノ上二郎氏をコーディネーターに、両講師、県林研副会長の響繁則氏が、時には客席も巻き込み、活発な議論を展開しました。 講師 田中惣次、田中淳夫 コーディネーター 井ノ上二郎



ゲストパネラー 響繁則 司会 遠藤正資

11月1日(日)原木シイタケひびき塾現地講義編

島根県立ふるさと森林公園内林地で、全国林業改良普及協会と共同主催で、「原木シイタケひびき塾現地講義編」を開催しました。約25名の参加者は、林業家であり、優良原木シイタケの生産者である県林研副会長響繁則氏の原木シイタケづくりを現地見本を見ながら学びました。また、財団法人日本きのこセンター三次支所所長の入江淳人氏より最新の形成菌の話聞き、植菌体験もしました。



講師 響繁則、入江淳人



11月1日(日)ネイチャーゲーム教室

島根県立ふるさと森林公園学習展示館において、「ネイチャーゲームと焼き芋の休日パート2」を開催しました。あいにくの雨のため室内で行いましたが、子供から大人まで、多様なネイチャーゲームを体験しました。

指導 遠藤正資 ボランティア 野田あや子、福岡茂明、谷口枝里子

11月8日(日)第7回里山自然塾

～紅葉散策と枝の飾りイス作り～

島根県立ふるさと森林公園内において、公園内を散策しながら、落ち葉遊びをしたり、樹木の話の聞いたりし、午後から枝でミニチュア・カント



リー・チェアーづくりに挑戦しました。 講師 中村正志 ボランティア 木村京子



11月8日(日) 県民の森ふれあい講座～森遊び

40センチ級のスギの伐倒から、竹筒ごはんづくり、北欧式たき火、クロモジの爪楊枝づくり、スギの和紙づくりまで、フルコースの体験を実施しました。 指導 響繁則、野田真幹

11月15日(日) 里山ものづくり体験

ふるさと森林公園学習展示館において、里山ものづくり体験として、来館者の希望者に対して、牛乳パックを混ぜて字が書けるものにするなど様々なアレンジを伴うヒノキの和紙づくりの指導を行いました。



指導 宮崎徳子



11月15日(日) 樹木観察会 IN 楽山公園

松江市と共同主催で、「樹木観察会 IN 楽山公園」を開催しました。約20名の参加者は、3班に分かれ、秋の楽山公演の樹木を、生物学的に、民俗学的に、または文学的にと多様な解説を受けながら楽しみました。

スタッフ 福岡茂明、竹田正彦、廣江百合子、中村正志、洲浜寿晴、小島郁子、野口朱美、国井加代子、難波徹、高橋光二、野崎研、野田真幹、宮崎徳子

11月初旬～中旬 うぐいす山整備

東出雲町立出雲郷幼稚園の裏山の最終整備、ヒノキ丸太のブランコの設置、樹名板30枚の設置、植樹等を行いました。

スタッフ 中村正志、福岡茂明、野田真幹



11月17日(火) 島根大学対応

事務局長の野田が、島根大学法文学部の講座(NPO論)へ出講し、もりふれ倶楽部の活動紹介を中心に、90分の講義を行いました。

講義対応 野田真幹

11月18日(水) 安来市東比田地区老人会対応

安来市東比田交流センターで、地区老人会「ひがしサロン」の行事として、「ヒノキの染め物づくり体験」と「間伐の大切さと間伐した森の豊かさ」に関する講義をおこないました。

事務局対応



11月21日～23日 中国・四国地区「森づくり活動コーディネーター養成ブロック研修」

島根県緑化推進委員会主催の「中国・四国地区森づくりコーディネーター養成ブロック研修」をふるさと森林公園において、運営をお手伝いしました。

コーディネーター 野田真幹、和田譲二

スタッフ 小林玲子、玉木麗子、伊原千里、宮崎徳子



1 1月28日(土) 安来市、東出雲町住民交流対応

安来市西比田交流館における、記念植樹後の安来市と東出雲町の住民交流会において、事務局長の野田が「子供達とできる事前体験・自然工作の紹介」というテーマで講演をおこないました。 講演対応 野田真幹

1 1月29日(日) 里山ものづくり体験

ふるさと森林公園学習展示館の来館者の希望者に対して、「里山ものづくり体験番外編」として、こけ玉づくりの指導をおこないました。

指導 伊原千里



1 1月29日(日) 自然観察会

ふるさと森林公園で、「親子のための自然観察会」を開催しました。冬の訪れを感じさせられる観察会でした。 指導 中村正志

1 2月2日(水) 森林公園視察対応

松江市の視察に訪れた中国の林業関係者4名の、森林公園視察を受け入れ公園の案内やもりふれ倶楽部の活動紹介、ヒノキの和紙づくり指導をおこないました。

対応 中村正志、野田真幹

1 2月6日(日) 親子劇場対応

竹楽器のコンサートともタイアップして、竹灯明づくりの指導を親子劇場松江センターの主催行事で行いました。 指導 中村正志



1 2月12日(土) 雲南市文化体育施設利用放課後子供教室対応

雲南市文化体育施設利用放課後子供教室の取り組みの中で、雲南市の加茂ラメールにおいて、親子の参加者にクリスマス灯明づくりの指導をしました。先方のリクエストにより、岡山県在住の岡田氏が指導しました。

指導 岡田邦博

1 2月13日(日) 第8回里山自然塾

～里山素材のリースづくり～

島根県よりの委託事業、第8回里山自然塾「里山素材のリースづくり」を開催しました。約30名が参加し、ツルの採集からスタートし、リースづくりに取り組みました。

講師 影山和美、中村正志 ボランティア 福岡茂明、木村京子



1 2月15日(火) 学校林を活用した森林環境教育促進事業

雲南市立西小学校の林業体験教室を島根県東部農林振興センター雲南事務所のスタッフと共に行いました。約30名が間伐体験をしました。次回に備えて、ヒノキの甘皮剥きも行いました。

指導 島根県東部農林振興センター林業普及スタッフ、中村正志、野田真幹



1月10日(日)第9回里山自然塾

～これぞ春の七草～



ふるさと森林公園において、島根県からの委託事業、第9回里山自然塾「これぞ七草」を実施しました。25名の参加者は、榎原道夫氏のそれぞれの薬効等も含めた講義を聞いたのちクイズで目を慣らし、公園近くの3カ所のフィールドで七草を採集し、無農薬有機栽培米の玄米を使った七草粥を試食しました。

講師 榎原道夫

1月10日(日)とんどさん

NPO法人もりふれ倶楽部では、宍道湖西岸森と自然財団とともに、ふるさと森林公園で伝承文化としてのとんどさんを開催しました。

地元を中心に、約50名の参加がありました。事務局対応



1月12日(火)学校林を活用した森林環境教育促進事業



安来市立布部小学校5年生に対して、緑の募金を活用した森林教室(パート1)を開講しました。島根県林業作業士の野田真幹が、森林保全の大切さについて話をしたのち、森林インストラクターの中村正志が模型を使って、整備が遅れた森林と土砂災害の話をしました。

指導 野田真幹、中村正志 ボランティア 野田あや子

もりふれ倶楽部今後の予定

1月31日(日) 里山バイオマスの地域循環に向けて(大田・あすてらす)10時~12時30分 無料
土佐の森・救援隊 中島健造氏来る!

2月 7日(日) 里山自然塾「花炭とハゼろうを作ろう!」10時~15時 学習展示館 参加費300円

2月14日(日) 公開会議「私」は森林に関わりたい 14時~16時30分 学習展示館 無料
多彩な森林経営を行う 栗栖誠氏を迎えて開催

2月28日(日) 栗栖誠氏の山林見学ツアー 参加無料 定員20名 早めのお申込みを!

仁多合庁6時、木次合庁7時、ふるさと森林公園7時30分、出雲合庁8時30分
出発予定で、浜田の栗栖誠氏の山林をマイクロバスで見学に行きます。

*すべて、事前申し込みが必要です。事務局まで、お申込みください。

もりふれ倶楽部会報

NO. 25

〒699-0406 松江市宍道町佐々布3352

ふるさと森林公園学習展示館内 もりふれ倶楽部

TEL(0852)66-3586 FAX(0852)66-3586

Eメール morifure@coffee.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.morifure.jp/>